

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	日田市立三芳小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	21
児童数	67	65	65	70	73	68	4	412	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じた指導の充実をめざして
 ~きめ細かな指導のシステムづくりと算数科におけるコース別指導を通して~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・算数
 児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。また、昨年度までの研究実績と児童に対する実態調査の結果による。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>研究テーマ 学習スタイルの把握と授業イメージ</p> <p>仮説 子どもたちの理解の状況と学習スタイルに応じたコース別指導を行えば、基礎的基本的な学力が定着し、授業がわかり学習意欲も高まるであろう。</p> <p>研究内容・方法 (1)「数と計算」領域でのコース別学習の実施を通して ・コース別学習 型、 型の有効性の検証 ・コース別学習の指導案の形式の作成 ・コース作り、子どものコース決定の支援の在り方等授業実施までの一連の流れの確立 ・学習スタイルの観点の洗い出し ・研究授業の持ち方 (2)全校指導システムの確立を通して ・日課表、指導記録、職員動静の作成 ・ドリルタイムの活用 ・学校独自の通知表の作成 ・担任ときめ担の打ち合わせ時間の確保と位置づけ</p>
--------	--

平成15年度	<p>研究テーマ 学習スタイルを織り込んだコース別学習のあり方 (修正理由) 学習スタイルを織り込んだ具体的な授業展開を明らかにする必要性から。</p> <p>仮説 子どもたちの理解の状況と学習スタイルに応じたコース別指導の効果的なあり方を工夫していけば、基礎的基本的な学力が定着し、授業がわかり学習意欲も高まるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p>
--------	--

- (1) 算数科全領域でのコース別学習を通して
 - ・コース別学習型の効果的な授業展開の在り方
 - ・指導方法の工夫と教材、教具の開発
 - ・コース別学習での人権的配慮の在り方
 - ・コース別学習に生かす教育課程作成
- (2) 国語科でのTT指導を通して
(変更理由)コース別学習の指導体制を組めないため。
- (3) 全校指導システムの確立を通して
 - ・全校指導システムの簡略化
 - ・日課表、指導記録、職員動静の修正
 - ・コース別学習につながるドリルタイムの在り方
 - ・通知表等評価の見直し
 - ・担任ときめ担の打ち合わせ時間の更なる確保と位置づけ

平成16年度

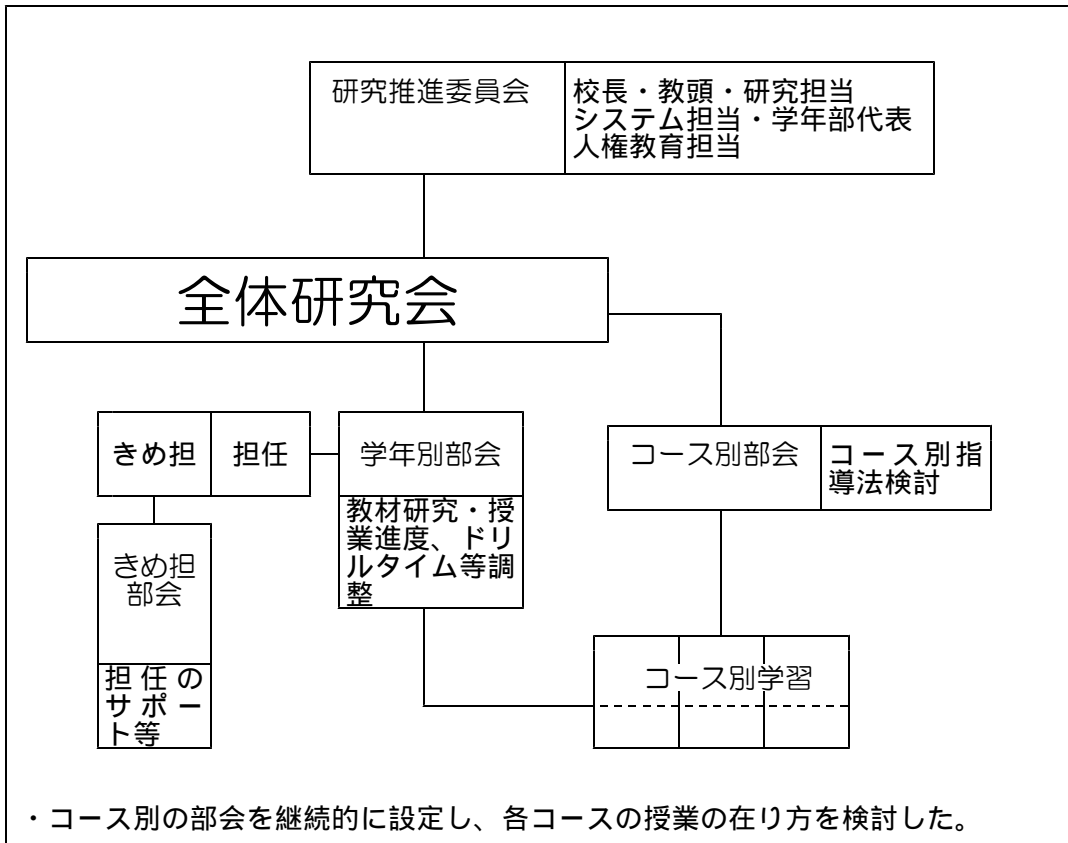
研究テーマ
子どもを生かす三芳プランの提案

仮説
子どもたちが自分の理解の状況と学習スタイルに応じたコース別学習を自分で選択し学習に臨めば、学習に主体的に取り組み、基礎的基本的な学力が向上するであろう。

研究内容・方法

- (1) 算数科全領域でのコース別学習を通して
 - ・理解の状況と学習スタイルに応じたコース別学習の具体的展開確立。
 - ・指導方法の工夫と教材、教具の開発
 - ・コース別学習での人権的配慮の在り方
- (2) 国語科でのTT指導を通して
- (3) 全校指導システムの確立を通して
 - ・全校指導システムの修正
- (4) 家庭と地域・学校との連携

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) 単元を通じたコース別学習により、子どもたちの基礎学力の全体的な向上と安定が見られた。しかし、「数学的な考え方」にやや伸び悩みが見られた。
(市販テストの1・2学期の比較より)
 - 知識理解
 - ・ A 評定の児童の全体に対するパーセンテージが2ポイント増加した。C 評定の児童が1ポイント減少した。
 - 表現処理
 - ・ A 評定の児童が1.5ポイント増加した。C 評定の児童が1ポイント減少した。
 - 数学的な考え方
 - ・ B 評定の児童が20ポイント近く増加した分 A 評定の児童と C 評定の児童が減少した。
 - コース別に見ると
 - ・ いわゆる A コースと C コースの児童に到達度の伸びが見られた。
- (2) 子どもアンケートを見ると、学期を通じたコース別学習により、子どもたちからは「学習内容を理解できる」「授業の進み方が自分に合っている」などの声が出された。
- (2) コース別学習の指導計画・1時間の指導展開をほぼ明らかにできた。
- (3) コース選択のための手順を簡略化し、取り組みやすく改善した。
- (4) 「指導と評価の記録」を作成し、個々の児童の実態を把握することにより、指導に生かすとともに授業改善の視点をもつことができた。
- (5) コース別学習に対応した独自の指導案形式を、評価の部分を中心に改善した。
- (6) コース別学習が定着した。
- (7) きめ細かな指導のシステムを修正した。
日課表、職員配置の見直し

2. 今後の課題

- 課題
- (1) 単元を通してのコース別学習は、児童の「関心・意欲・態度」「知識・理解」「表現・処理」の面を伸ばすことができたが、コースの児童に合った「数学的な考え方」を伸ばすことにつなげていない面があるので、「数学的な考え方」をさらに伸ばすための指導方法を考える必要がある。
- (2) 単元や児童実態にさらに応じたコース別学習の在り方を修正確立する。
- (3) システム（職員配置、教室配置、単元設定等）の簡略化に取り組む。
- (4) 国語科における基礎・基本の指導の充実
- (5) 家庭や地域との連携

学力等把握のための学校としての取組

- (1) 2年生以上での標準学力テストの実施（児童の学習状況の変容を捉えるため、年1回学年当初実施）
- (2) 単元終了後のテストの一覧表作成（全学年、観点別、コース別。コース別学習の有効性を分析するため）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 「学校間連携推進地域連絡会」での報告
- (2) 大分県『「学力向上フロンティア事業」指導資料第1集』での報告（平成14年度）
- (3) 市教育センター公開講座にて発表（平成15年8月12日、日田市教育センター、管内教員対象、コース別学習の指導実践について説明）
- (4) 保護者への一斉授業公開（平成15年7月8日、保護者対象、コース別学習周知及び意識調査のため）
- (5) 研究発表会開催（来年度 平成16年10月下旬～11月初旬を予定）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無